

くじらづか
鯨塚

「鯨塚」は、明治20年代から大正時代にかけて作成された一部の地図に見られる石狩浜の地名です。江戸時代から明治初期の古文書や地図には載っておらず、最初に「鯨塚」が記載された地図は、明治24（1891）年の北海道庁製作20万分1地形図（いわゆる「北海道実測切図」）です。この後、明治29年（1896）の仮製5万分1地図及び43（1910）年の修正図、大正6（1917）年の5万分1地図まで「鯨塚」は表示されています。しかし、続く昭和10（1935）年修正の5万分1図以降は表示されなくなります。同時期の明治27（1894）年に作成された北海道殖民区画や明治39（1906）年の石狩町明細地図にも「鯨塚」は見られません。



地名の鯨塚とは別に三等三角点「鯨塚」もあります。この水準点は大正2（1913）年9月19日に測量されています。位置は大正5（1916）年5万分1地図等の鯨塚に比べやや南西にずれています。石狩浜は地名が少ないため、水準点の場所を示す地名として少し離れている「鯨塚」を使ったものと推測されます。

クジラに関する石狩浜の地名には江戸時代から記録がある「フンベムイ」が知られています。フンベは、アイヌ語でクジラを意味する“humpe”であり「クジラが漂着したところ」という意味だと考えられています。フンベムイは明治に入り漢字で「分部越」と表記され字名として用いられました。字名として用いられた形跡のない鯨塚とは対照的です。鯨塚がなぜ一時期だけ地図に現われ、そして消えたのか、現在も判っていません。

（工藤義衛）

- （1）工藤義衛（2013）石狩浜の鯨と塚をめぐる。いしかり暦，26：50-59.
- （2）山田秀三（1984）北海道の地名。北海道新聞社.
- （3）道庁製20万分1地形図.